



### 沖縄地上戦・体験のあらまし

本日は、お忙しい時間に沖縄戦場体験談を皆様に私の拙い話が出来る事に感謝しております。沖縄の戦展展の戦場体験者による茶話会を計画され、沖縄出身として深く感謝いたします。合わせて、戦争の出来事を語る大役を戦場体験した私が選ばれて、この上ない光栄に思います。

世界平和を願う者として、皆様に一生の糧に役立てば有難いと思います。

私は昭和 13（1938）年沖縄県糸満市字与座の地で生まれました。昭和 16 年日本海軍は米国軍港真珠湾奇襲攻撃、太平洋戦争が勃発、第二次世界大戦が始まった。沖縄本島には、昭和 20 年 4 月 1 日に北谷、読谷村海岸から上陸、沖縄地上戦が展開された。本島中心部で 2 分されて、北と南へ米軍は進行した。私は当時 6 歳の幼稚園児で親の指示で、防空壕に出入りして戦火を逃れた。日増しに戦況は悪化し、戦死者や怪我人が周囲に多くなって、怖さが増した。避難民、住民、友軍の人々が南部へ移動し道路には機銃、爆弾に被災した人々が多く散在して軍用車や戦車のキャタピラの下敷きになって、戦場の凄まじさを見た。6 月 13 日午前 8 時ごろ、簡易防空壕に潜んでいた 15 名は、一人重装備した米軍人に捕虜になった。連行される途中、祖母は風評（デマ）によって、捕虜になったらどんな仕打ちを受けるか？又、辱めを味わうか精神的に迷って自殺の路へ走った。燃え盛る仮小屋に祖母は投身自殺した。道路に子供をおぶった母親が、腰にジュラダミン製弁当箱を提げている姿で、戦車のキャタピラで轢かれた遺影は現在も忘れない。その後、家族は一人も戦火では怪我もなく収容所に連行されて、戦後の生活が始まり現在に至る。